

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人 志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2393000415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの運営理念『入居者様を敬い、個々の思いに寄り添い、笑いある生活』を大切にしている。普段から一人一人のお話する時間を大切にし、笑い声がたくさん聞こえる空間作りを心掛けている。また人生の先輩である入居者様を敬うことは基本としつつ、アットホームで家族間のような暖かい関係を構築している。個々の思いに寄り添う、といった点では、『聞きます月間』という個別レクを実施している。入居者様の行きたいところ・やりたいこと・食べたいものなど望みや思いをお聞きし、その思いに寄り添い実行に移している。家族様とは密に連絡がとれるよう、LINEで繋がり入居者様の様子を送るなど日頃から行っている。普段から連絡を取り合うことで些細な相談もしやすい関係を築いている。年に1回の家族会では、家族と一緒に食事をするだけでなく、夏祭りと併せて行うことで盆踊りを共に踊ったり、協力してゲームをするなど会話だけでなくコミュニケーションを多くとれるような工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームが掲げる理念実践に向けた取組みがなされている。利用者を人生の先輩として敬う姿勢があり、尊厳やプライバシーを大切にした対応が出来ている。利用者との良好な関係を保つことにも注力し、アットホームな雰囲気づくりに取り組んでいる。
利用者個々の意向や思いを把握し、出来る限りその思いに添えるよう支援している。意向や思いを把握するために、日々の関りや「聞きます月間」という取組みがあり、やりたいこと・行きたいところ・食べたいものなどをレクリエーション活動時に提供している。
利用者の口腔ケアに対して重点的に取り組んでおり、利用者の口腔内の清潔維持・嚥下機能の維持改善に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに運営理念を掲げ、毎朝の朝礼で職員揃って声に出し、共有している。”個々の想い”に寄り添えるよう、担当職員が想いを聞き取り、実現できるよう個別にレクリエーションを行っている。	法人理念とは別にホーム独自の理念を掲げている。ホームの理念は職員の意見を反映したものとなっており、各ユニットに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントにである観桃会やふれあい祭りに参加させていただいている。スペースを確保していただき、作品展示という形で参加している。	地域のイベントに積極的に参加している。学区で交流機会があり、北交流館で行われる行事に展示スペースをもったり、ホームで作成した雑巾やぬいぐるみを、こども園にプレゼントするなどの取組みがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設前にある掲示板にGHの普段の様子がわかるポスターを掲示している。また地域の交流館にGHのチラシを掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の様子や施設内での取り組みなどお伝えしている。出席者からいただいた意見を運営に活かしている。	コロナ禍により、議事録を配布して開催していたが、10月以降対面で運営推進会議を開催している。会議では、ホームの取組みや利用者の様子を映像や画像を用いて説明し、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者とは事業所の現状を伝えながら、相談・報告できる関係性を築いている。	行政担当課とは、十分な連携が取れており、良好な関係が築かれている。複合施設内には地域包括支援センターが設置されており、主な連携先となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一度、職員が交代しながら研修を行なっている。委員会の活動としても、身体拘束・不適切なケアがないか普段の対応をチェックし、職員全員に周知できるよう会議の中で話し合いの場を設けている。	身体拘束については2か月毎に研修が行われており、職員が交代で講師を務めている。日常のケアの中でスピーチロック防止に取り組んでおり、管理者のOJTによる指導がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設で起こった事故、事件などはコピーを掲示し職員全員が目を通すようにしている。また管理者は講習を受け、職員へ指導・周知し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受け、職員へ周知している。他の職員も研修を受け、理解・知見を広げている。また家族様へは管理者説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては管理者が細かく説明させていただいている。その際は入居者様、ご家族様が理解・納得をされた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの普段の意見や、ご家族様からの意見・要望があればお伺いし、運営に反映できるよう努めている。また施設玄関に意見箱を設置している。	利用者や家族から意見や要望を聞く機会を設けている。聞き取り結果を記録する書式も備えている。家族会の開催も継続しており、LINEを活用した相談もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて職員から意見や提案を聞く機会を設けている。また普段からい県や相談できる関係性を築き、改善・反映できるよう努めている。	個別の面談が年に2回あり、会議も意見や提案を聞く機会として活用している。管理者と職員でライングループが作られており、いつでも意見交換や情報を共有できる仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、アンケートや面談、普段の勤務を通し管理者が職員一人一人の努力や実績を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での月例研修や、職員が交代で講師になり、研修を行っている。法人外でも随時必要とされる研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内の夏祭り等イベントの際は法人内で協力し合い、法人内のイベントに活かせるよう情報共有している。豊田市グループホーム文化会にも参加し、同業者との交流の場を設けている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者等が生活されている場を訪問し、困りごとや要望をお聞きしている。入居後も普段からお話を傾聴し、安全を確保できる関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から要望・相談などあった際は耳を傾けお話を伺っている。また、。入居者様の近況報告の連絡を行い、安心して相談いただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、入居者様・ご家族様が必要とされているサービスを見極め、支援内容に取り込んでいけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士で顔なじみの関係性を築くことで、会話や交流の様子から入居者様の些細な変化や想いに気付けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様が良好な関係でいられるよう面会や家族会等の機会を設け、絆を大切にし共に支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や古くからの友人など関係が途切れないよう、面会や手紙のやりとり等要望に添った支援に努めている。	コロナ感染症の5類移行により、5月以降は友人・知人の訪問がある。手紙のやり取りなどの通信支援は、コロナ期間中も継続していた。家族との外食や墓参り等の要望は、感染対策を講じて実現させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりが孤立せず気持ちよく生活できるよう、職員が間に入りながらコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が特養へと行かれたり他施設へ行かれても、これまでの関係性を大切に、必要に応じて相談・支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『聞きます月間』にて、個々の思いをお聞きし希望を叶えられるよう取り組んでいる。普段の生活で思いをお聞きした際は、記録に青ペンで記入するなどして職員同士で情報を共有している。	利用者個々の思いや意向を把握するために、「聞きます月間」を設定している。日常で聞き取った思いや意向も記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの内容を職員間で共有している。普段の会話の中でも生活歴や馴染みのあるものについてお聞きし、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、徐々に変化する現状を把握している。GH会議や休憩時間などで職員同士で情報を共有し、ケアの統一に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の思い、意見を反映できるよう聞き取りを行いながら計画作成をしている。ご家族様にも相談しながら行い、より良い介護計画が実現できるよう努力している。	利用者や家族の意向や思いを汲み取るための取り組みがあり、介護計画に反映している。介護計画は6ヶ月・1年で見直し・更新が行われており、利用者の状況に変化があれば、随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様と関わった事や会話したこと、思いがくみ取れた時には青ペンで記録に記入するようにしている。他職員もすぐ共有できるよう対応し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化していく入居者様の状況に応じて、職員同士情報を共有しながら柔軟に対応・支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の馴染みのある場所等を把握し、安心して出かけられるよう努めている。その際は心身の力が発揮しながら安全に楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望を大切にし、かかりつけ医への受診や施設と連携を取っている往診医に上申できるよう支援している。	協力医による訪問診療が月に2回ある。専門の診療科の受診は、原則として家族対応となっているが、緊急時などにはホームで対応することが可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化に日々注意し、併設看護職員に相談や、異変がある際は管理者・往診医に上申・報告・相談をし適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、管理者が医療機関に様子を見に伺い、担当医師や看護師と情報交換や相談をするなど、関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化・終末期に向けての方針を説明を行ない、状態に応じて定期的に話し合っている。重度化された場合や終末期のあり方を共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	看取りは基本的には行わず、入居時に重度化・終末期の対応に関して説明している。利用者の状況により家族との話し合いの機会を設け、他施設への移行支援等を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、全ての職員に周知し対応できるようにしている。外部での急変・事故研修に参加や自施設内で研修・訓練を定期的に行い、情報共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。防災マニュアルを作成し、昼夜問わず対応できるように避難の方法を身につけている。また地域の方にも災害時は協力をお願いしている。	BCP(事業継続計画)を完成させ職員に周知し、救急救命講習も受講している。防災備品は法人管理とし、停電対策として発電機を設置中である。地域との協力体制については、課題の一つと捉えている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、顔なじみの関係を築きながらも敬う気持ちで声掛け・対応に努めている。全職員の同じ対応ができるよう支援方法を統一している。	毎月1～2回の研修を行っている。人権やプライバシー・接遇などテーマに取り上げ、職員の理解を深めている。利用者一人ひとりを理解し、利用者個々に寄り添った対応が出来るように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、本人様の思い・希望を確認するよう心掛けています。居室でゆっくり話す時間を設け、思いを表現しやすい支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるが、本人様のお一人で過ごしたい時間、趣味の時間などは大切にしたいと考え、支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の研修を行うことで、身だしなみの大切さを全職員に周知している。朝いちばんに髪を整えたり、男性は髭剃り、女性は爪のケアなどの時間を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは施設厨房で準備している為普段の調理はないが、汁物をよそったり食器洗い、拭きなど準備や片づけを一緒に行っている。	食事の準備や片付けは、利用者が出来ることを一緒に行っている。利用者からのリクエストには、行事や食時のレクリエーション時に提供するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、一人ひとりに合った食事形態での提供をしている。水分量を午前中で一旦チェックし、少ない方は午後から積極的に摂っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科医と連携し、毎食後の口腔ケアのほか、午後から口腔マッサージや仕上げ磨きを行い口腔内の把握、清潔保持に努めている。一人ひとりに合わせてブラシを変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄していただけるよう支援している。本人様の気持ちを配慮した声掛け・誘導で失敗のない排泄支援を心がけている。	利用者の状態を把握し、トイレでの排泄を支援している。介助方法や排泄用品は、利用者個々に適したものを選定している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排便体操やマッサージ、散歩等行い、往診医と相談しその方に合ったお薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2日は入浴できるよう支援している。一人ひとりの入浴時間に合わせたり、なるべく本人様の入りたいタイミングを伺い入らせている。	入浴は週に2回の機会があり、出来るだけ利用者の意向に沿った支援に努めている。入浴拒否にも柔軟に対応し、無理強いすることなく楽しく入浴してもらえるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた時間にて対応し、休息をとれるようにしている。生活習慣を把握し、夜間安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを確認し、一人ひとりの服薬内容を理解したうえで本人様に合った方法で服薬を行っている。変化があれば往診医に連絡し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他入居者様との交流も大切にしながら、おひとりでの趣味嗜好の時間も楽しんで頂けるよう支援している。そのほか、「聞きます月間」にて本人様のやりたいことを実行できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策を取りながら、出来る範囲での外出をしている。神社や喫茶店、買い物など本人様の希望に副った外出に努めている。	利用者や家族の意向を汲み取り、外出できるように支援している。親族の結婚式や法事に出席している。日常はホーム周辺や公園・神社に散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金は事務所にて管理させていただいているが、外出時のお会計を入居者様にさせていただくなど、実際に財布を持ちお金を使うことの支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と連絡を取り合い、お話しできる環境に努めている。正月には家族や送りたい相手に年賀状を書くなどされ、やりとりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に共有空間や居室の掃除をし、清潔保持しながら生活している。毎日の気温、湿度を確認し、快適に過ごしていただけるよう努めている。壁面には、一緒に制作した季節感のある作品を飾っている。	利用者が主に日中を過ごすリビングは、快適に過ごせるように安全に配慮し、季節を感じられるように工夫している。清掃は職員と利用者が一緒に行い、衛生を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士でフロアで職員を交えてお話ししたり、それぞれの居室で話されるなど、思い思いに過ごせる場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れたものや馴染みのあるものを持ってきていただき、安心して心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の居室には、家具や調度品が持ち込まれており、落ち着いて過ごせるように工夫している。共有空間と同様に清掃がなされ、衛生を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札をつけたり、トイレの場所がわかるようドアに表示をつけている。安心・安全に生活していただけるよう生活の場を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人 志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouNoCd=2393000415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの運営理念『入居者を敬い、個々の思いに寄り添い、笑いある生活』を大切にしている。普段から一人一人のお話する時間を大切に、笑い声がたくさん聞こえる空間作りを心掛けている。また人生の先輩である入居者を敬うことは基本としつつ、アットホームで家族間のような暖かい関係を構築している。個々の思いに寄り添う、といった点では、『聞きます月間』という個別レクを実施している。入居者の行きたいところ・やりたいこと・食べたいものなど望みや思いをお聞きし、その思いに寄り添い実行に移している。家族様とは密に連絡がとれるよう、LINEで繋がりに入居者の様子を送るなど日頃から行っている。普段から連絡を取り合うことで些細な相談もしやすい関係を築いている。年に1回の家族会では、家族と一緒に食事をするだけでなく、夏祭りと併せて行うことで盆踊りを共に踊ったり、協力してゲームをするなど会話だけでなくコミュニケーションを多くとれるような工夫をしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内にGH運営方針「入居者様を敬い 個々の思いに寄り添い 笑いある生活」を掲げ、毎日朝礼時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流館祭りである「観桃会」には、毎年パネルや作品展示にて参加している。今年も参加予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同中学校区の交流館にチラシを置かせていただき、誰でも読んでいただけるようにしている。また施設ごとのブログでも日々の生活をあげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて取り組み状況等について報告し、出席者からの意見等は取り入れるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が、介護保険課と連絡を取り合いそこでの内容等を職員に下ろしてくれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の研修を行い、身体拘束について正しく理解し、しないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の研修に中に、組み込まれており正しく理解できし、しないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取り組めていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様、入居者様に理解し承諾いただけるよう管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	正面玄関に意見箱を設置。面会時やLINEでの内容もすぐに管理者に伝え反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議に聞く機会を設けている。また常日頃から、職員同士の会話等からも言いやすい環境を作るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が一人一人のことを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修担当職員を決め、各々の課題や知りたいこと等をテーマに職員向けに研修を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会に参加し、同業者との交流の機会と作っている		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が困っているときには、傾聴し安心していただける等に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心していただけるよう、入居者様の状況報告等をし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、入居者様の希望要望を受け、実際に必要なサービスを見極めて利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に合った生活ができるように、日々の関わりの中で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、入居者様の関係が切れることのないよう維持できるように関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからのご友人が来館された際は、家族さまの許可を得て面会していただき思い出話をして頂いている。また、いつでの着いていただけるように施設電話番号をおつたえしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう、職員が間に立ちコミュニケーションを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所や退所になった方のご家族様からの相談や連絡も対応しており、またそう出来るよう関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに少しでも近づくよう対応を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や馴染みの暮らし方を大切にして、グループホームで生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを作り、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族様と課題について話し合い意見を反映できるよう計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入し、情報共有している。計画見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の入居者様の状況に合わせ対応出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の力が発揮し生活できるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、かかりつけ医のある方はご家族様と一緒に受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員がいないため、往診医や併設施設の看護職員相談等をし連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院されたときは、管理者が病院医師や看護師等より情報をいただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時等に終末期の在り方について、ご家族さまに延命希望等聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は往診医へ連絡し指示を仰ぎ対応している。AEDの施設内研修に参加しているが、全職員ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年4回グループホームで実施し、対応できるようにしている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、人生の先輩のため、馴染みの関係になっても敬う気持ちを忘れずに対応させて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつの時での、ご本人の気持ちを一番と考え必ず気持ちをお聞きして、可能な限り思いを叶えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活という大まかな一日の流れがある中で、本人の体調に合わせ休息をとったりして各々のペースで過ごしている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様のお好きな服を着ていただいたり、迷われる方には一緒に選んだりと支援している。また、整髪も、くしをお渡しして出来る限りご自身で整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物をよそうことを手伝っていただいている。洗い物・片付けは入居者様・職員一緒に行っている。秋ごろからではあるが、毎週日曜日の15時のドリンクは数種類の中から好きなものを選んでいただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、9時清掃後、10時、14時、15時、16時に水分提供している。暑い時期は14時にはスポーツドリンクや梅ジュースを提供し、摂取量の少ない方は声かけや温めたりし手対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア声掛けをして促している。また、毎日昼食後には口腔チェックを行い、清潔な状態を保てるよう支援している。3時のおやつ後は、必ずうがいをしていただき口腔内に食べかすが残らないようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて一人一人のパターンを把握周知し、声かけや支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便体操やお腹マッサージを行い、便秘にならないよう努めている。往診医と連携し薬の対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて、週2回の入浴をしていただけるよう心掛けています。毎月入浴剤を変え、色や匂いを楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調等に合わせ休めれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報確認がすぐできるようにユニットごとにファイルにまとめている。何かあれば往診医に連絡・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意料理を披露する機会を作っている。料理レクや行事では、野菜の皮むき等無理のない範囲で一緒に行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の思いを叶える「聞きます月間」で短時間の外出支援はあるが、全員での外出は出来ていない。季節を感じられる外出が出来たらとの思いはある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理美容の利用時や外出時には、ご自分で財布から支払いをしていただける環境を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINEを使用しビデオ通話したり、希望に応じて電話連絡の対応に努めている。また知人からのお手紙には返事を書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面飾りを入居者様と一緒に作り飾ったり、暑くなる時期には、リビングの窓にはすだれをかけて季節を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士談笑したりしやすい環境を作っている。時には隣のユニットへ行き過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、安心して生活できる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の生活行動の中で安心安全に過ごしていただけるよう、設備等の位置に配慮している。		